

「黙秘します」

私にとっての糟谷同志とは、この同志が最後に発したと伝えられている一言につきると思います。

1969年に糟谷同志が警棒の乱打で虐殺されて50年が経ちました。当時私は愛知県の私立大学の4年で、昭和寮という学生寮の寮生でした。空手部や合気道部等の体育会系の学寮でたいいのは1年で退寮を選択しました。そこに私は4年もいました。朝夕の二食付きで1カ月9,000円で、まあ、強くなったのは麻雀と酒ぐらいでした。(あのままだったら・・・私はこの場に来てないし、話してないだろうな・・・不思議な感じがします)

人は偶然知り合った友によって、人生が左右されるのではないのでしょうか？

高校時代の親友がたまたま法大全共闘副議長だったおかげで、東京に学ランを来て遊びに行くとその親友に無理矢理ヘルメットをかぶらされデモの隊列に入れられました。最初は黄色だったか白のヘルメットで、そのあと緑のヘルメットでした。

そして・・・1969年11.13扇町戦闘以後ヘルメットの色を赤に変えたのです。

その48歳で病死した親友は、11.17佐藤訪米阻止・蒲田決戦で逮捕されました。糟谷同志につづけ！と一歩も引かずに闘い逮捕されました。麻雀と酒に明け暮れていた私は友人の逮捕にショックを受けたのを覚えております。1970年に、一人っ子の私ですがふるさとの金沢に戻らず、親友にいる東京にで一旗揚げるべく名古屋から上京しました。しかし、一旗ではなく赤旗を掲げていました。1970年11月25日三島自決の前日、初ストライキを貫徹しました。手作りの組合旗を社長宅の物干竿にくくりつけ立てました。当時社長宅に住み込みで神田のヤッチャ場で働きながら手探りで組織づくりをしていました。

糟谷同志と会ったことはありませんが、三里塚のプロ青同横堀団結小屋の逮捕直後の写真は忘れられません。

糟谷同志の闘いは、1971年9.16東峰十字路戦闘・78年3.26三里塚空港包囲突入管制塔占拠のたたかいに継承されてきたと思っています。

私は管制塔16階で逮捕され、佐倉署で検事と2名の刑事の23日間の取り調べを強いられました。

「命を賭けた闘いは命を賭けて守る」

「黙秘します」

長い一日が始まった。

毎朝、朝食後 1 番に半地下の留置場の独房から引き出され、一番後に（午後 11 時のこと
もありました。といのは・・・戻された報復的取り調べの前、私は糟谷同志に恥じない完
黙の闘いを固く誓いました。毎朝 23 日間独房で目覚めると同時に誓いました。

そして糟谷同志のおかげで、起訴 2・3 日前に身元がバレたが完黙を貫徹することができ
ました。（1978.3.26 管制塔を占拠し開港を阻止したオヤジたちの証言」82 ページの共同
通信社の写真に前田隊長は写ってないのに、「管制塔から連行される前田隊長」と説明文
にありました）

あれから 42 年、あの時の気持を忘れることなく、糟谷同志に恥じない生き方を続けたい
と思っております。

2020 年 1 月 13 日

中 川 憲 一